平成１７年度

病害虫発生予察注意報（第３号）

平成１８年２月２７日

茨城県病害虫防除所

ナシ黒星病菌の越冬量が多いと予想されます

催芽～萌芽期の防除を確実に実施し，発病を抑えましょう。

作物名：ナシ

病害虫名：ナシ黒星病

［発令の内容］

発 生 量：多い

発生地域：県南・県西地域

［発令の根拠］

① 平成 17 年 11 月上旬の調査で，県南及び県西地域におけるナシ黒星病秋病斑の発病度及び発生地点率は，過去 5 年中最も高かった(表 1)。また，昨年 10 月は，気温が平年より高く，曇りや雨の日が多かったことから，秋病斑上の胞子が芽のりん片に感染しやすい条件であった。このことから，ナシ黒星病菌の越冬量は，例年より多いと予想される。

② 気象予報(2 月 24 日発表)によると，向こう 1 ヶ月の気温は平年並か高く，天気は曇りや雨の日が多いと予想されることから，発生を助長する条件である。

表１　ナシ黒星病秋病斑調査結果　　(平成 17 年 11 月上旬調査)

	発病度		発生地点率(%)	
	平成 17 年値	平均値*	平成 17 年値	平均値*
県北地域	0.0(4)	0.3	0(4)	50
県南地域	**3.3**(1)	0.4	**100**(1)	38
県西地域	**0.4**(1)	0.1	**78**(1)	11
県平均	**1.3**(1)	0.3	**72**(1)	29

（　）内数値は，過去 5 年中の順位。

＊　平成 13～16 年の平均値。

［防除対策］

① 罹病した葉は一次伝染源となるため，園内に落葉が残っている場合は落葉を集め，土中深く埋めるなど適切に処理する。

② 果そう基部での発生は葉や果実への二次伝染源となるため，赤ナシ無袋栽培(ジベレリン無処理)病害虫防除暦（以下，防除暦）に記載されている，催芽～萌芽期(3 月下旬)のデランフロアブルを確実に散布する。県北地域においても，昨年ナシ黒星病の発生が多かった園では，3 月下旬の防除を必ず行う。

③ りん片脱落直前(4 月上旬)のインダーフロアブル及び落花期(4 月下旬)のスコア水和剤 10 は，黒星病を防除する上で特に重要である。防除暦に従い，適期に確実に散布する。

④ 薬剤散布は，10a 当たり 300ℓを目安に，かけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

⑤ 薬剤散布の際は，ドリフト等により薬液が周辺に飛散しないよう，十分注意する。